

令和5年度山の炭素吸収応援プロジェクト
森林シンポジウム
～J-クレジット・民間資金による森林整備と脱炭素貢献～

九州電力社有林における

J-クレジット創出の取り組みについて

2024年2月28日
九州林産株式会社

会社概要

社名：九州林産株式会社

本店：福岡県福岡市南区野間3丁目7番20号
(林業部：大分県由布市湯布院町中川815-1)

創立：1949年3月30日

資本金：4億9千万円

株主：九州電力株式会社（100%）

主な事業内容：九州電力社有林の受託経営
森林管理事業
造園・土木工事の設計・施工や緑地維持管理業務 など



自己紹介

名前：**渡邊 環樹** (わたなべ たまき)

所属：林業部森林経営グループ

出身：愛知県

在住：大分県由布市湯布院町

趣味：狩猟、クライミング



【くじゅう連山・平治岳山頂にて】

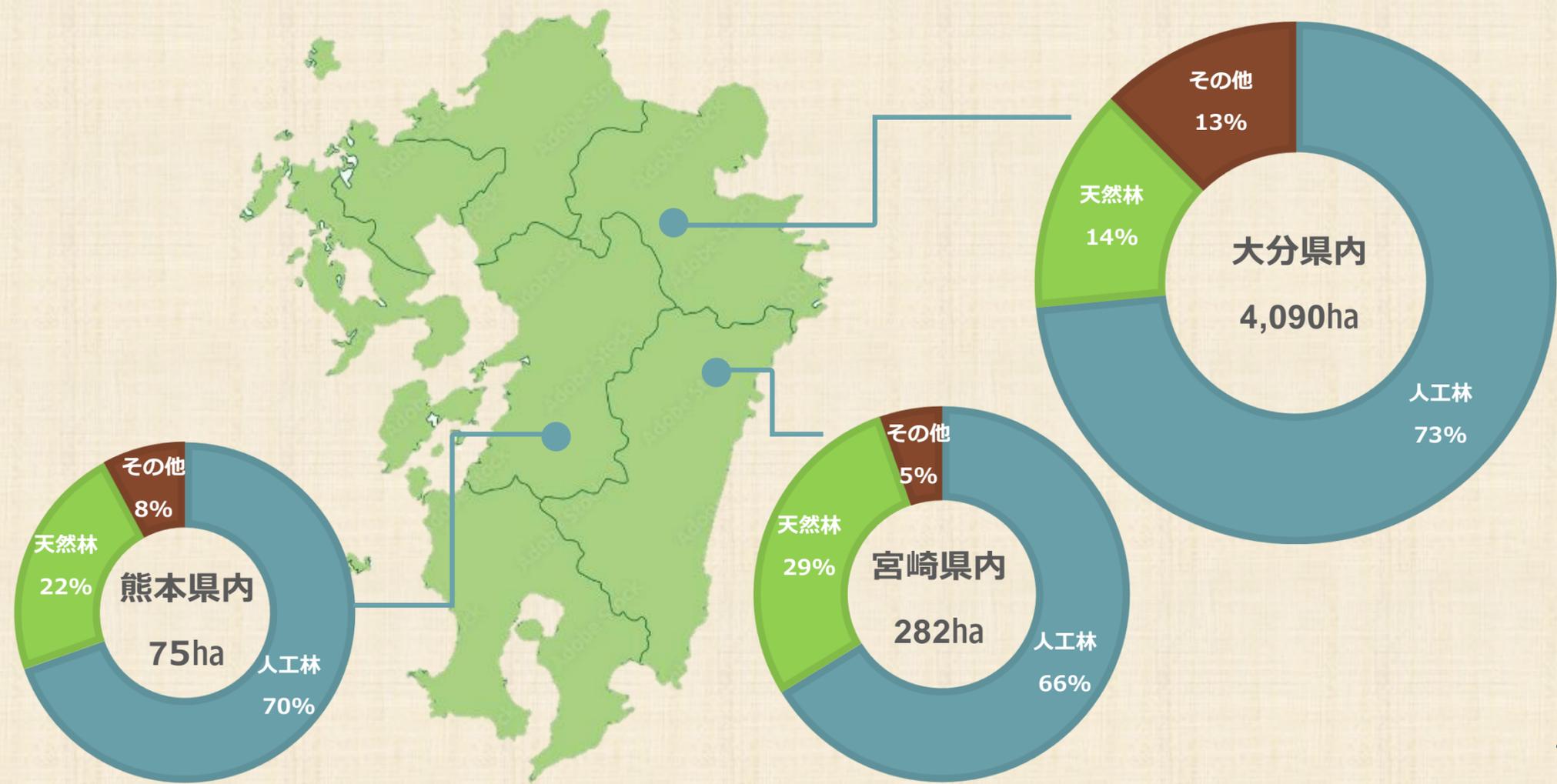
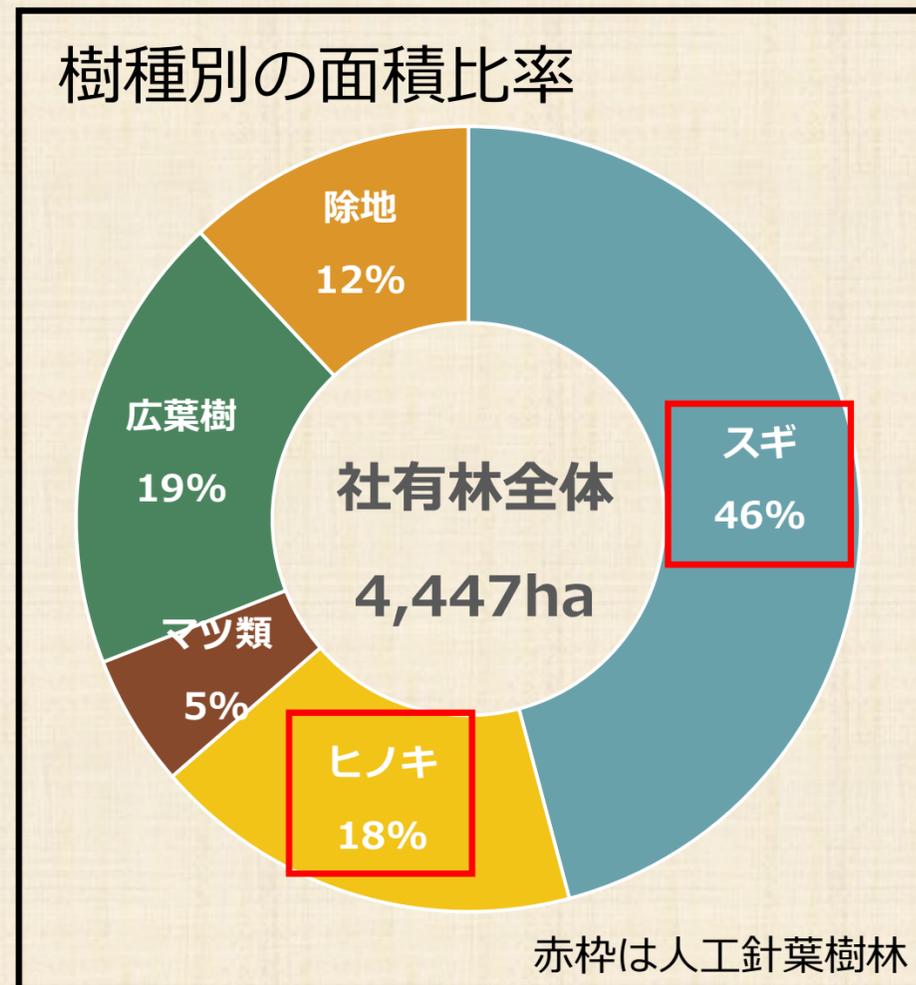
目次

1. 九州電力社有林について
2. J-クレジット創出の取り組みについて
3. おわりに

1. 九州電力社有林について

①. 概要

- 社有林面積：大分県を中心に4,447ha（うち、スギ・ヒノキ林の比率：約64%）
- 管理方針：社有林内を立地条件、生育状態等により生産林と環境林に分類
 - 生産林：木材等生産機能を重視する森林
 - 環境林：公益的機能を重視する森林さらに細かくゾーニングし、目的に応じた適切な管理を実施



②. 沿革

1. 九州電力社有林について

1919年
(大正8年)

原野造林事業を開始

九州電力の前身の九州水力電気(株)が大分川源流部において水力発電の水資源確保と電柱用材生産を目的として原野造林に着手



1949年
(昭和24年)

九州林産(株)が創立

九州水力電気(株)から山林管理を引き継いだ九州配電(株)の林業部門から分離・独立し、九州林産(株)が創立

2005年
(平成17年)

FSC®森林認証取得 (FSC®C018956)

当社が管理する九州電力社有林において、FSC®森林管理認証 (FM認証) を電力会社で初めて取得 (国内では20件目、九州では2件目)



2019年
(平成31年)

九州電力社有林100周年

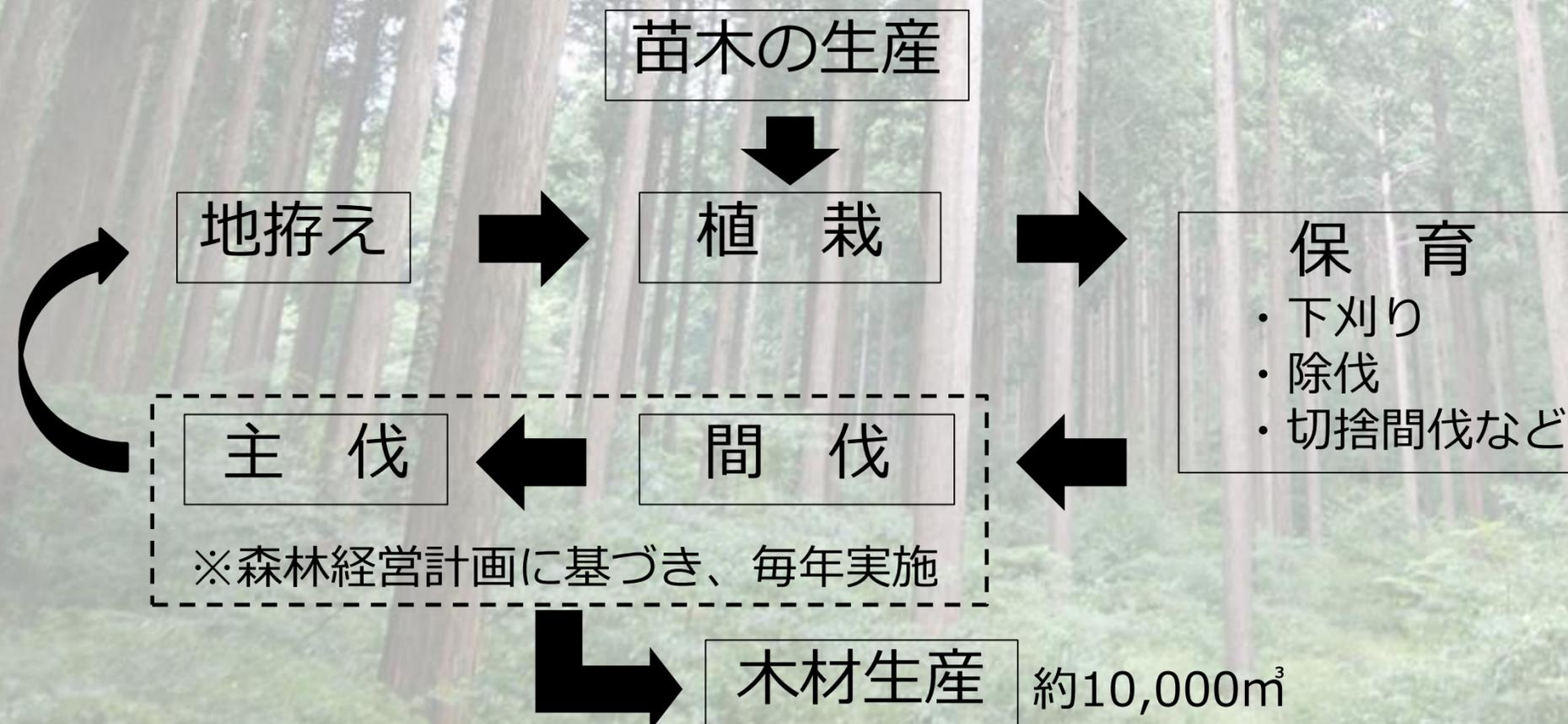
記念行事の一環として京都市の賀茂別雷神社 (通称：上賀茂神社) にヒノキの大木を寄贈

③. 九州電力による社有林経営の概要

【基本方針】 水といのちを育む「**みらいの森林（もり）**」を子どもたちの未来へ

【目指す姿】 環境にやさしいエネルギーを支え、人と生きものが共存する豊かな社会に貢献できる健全な森林を形成します

【持続可能な森林経営の実施】



FSC®森林認証に基づく森林管理により、**持続的な経営と環境への配慮**を両立

社有林の付加価値向上の検討
→ **J-クレジット創出の取り組み開始（2020年）**

④. 環境への配慮（九電グループの取り組み）

- 由布市の山下池周辺の九電社有林（「くじゅう九電の森」）では環境教育を実施、子どもたちの「自然を大切に作る心」を育てている
- 平治岳周辺の自然林については、生物多様性の保全が図られている地域として、環境省より「自然共生サイト」として認定を受けている（「30by30」への貢献）



【環境教育のフィールド・くじゅう九電の森】



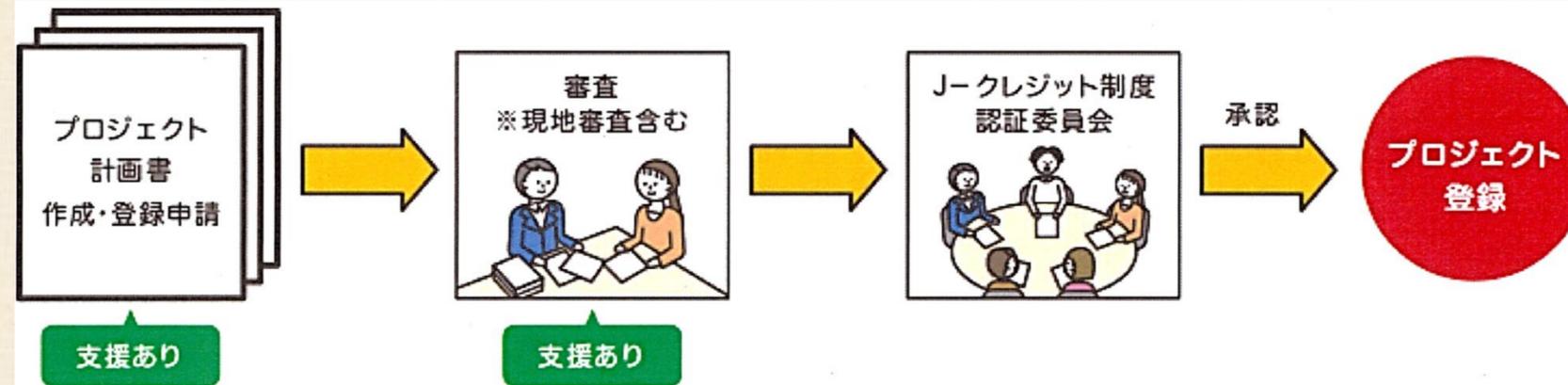
【平治岳山頂付近のミヤマキリシマ】

2. J-クレジット創出の取り組みについて

①. J-クレジット創出までの流れ

出典：J-クレジット制度事務局作成資料【J-クレジットの概要】

STEP1 プロジェクトを計画し、プロジェクト登録の審査を受ける



九州電力社有林
の実施状況

↑2021年3月に妥当性
確認審査を受審の上、
プロジェクト登録を申請

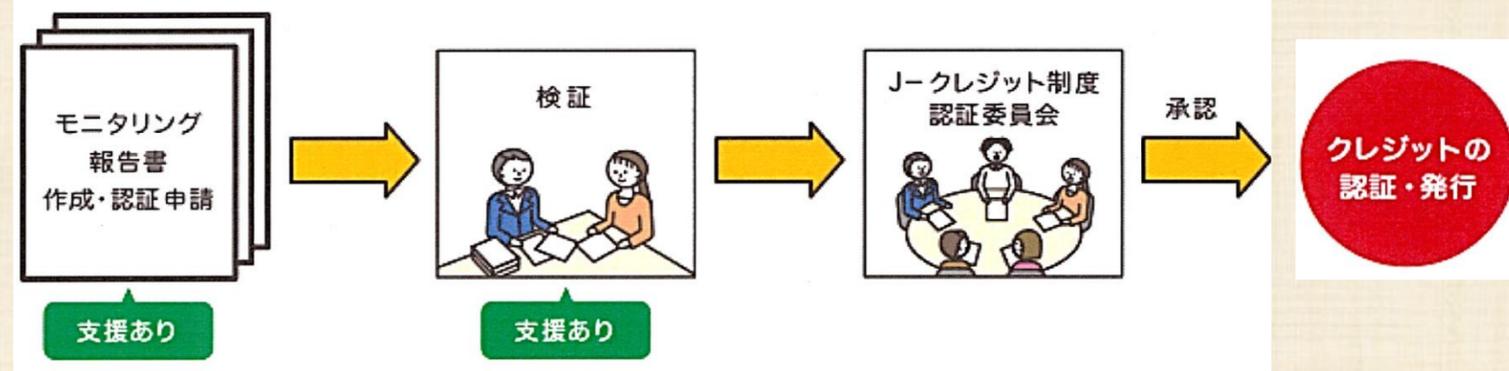
↑2021年6月の認証委員会で承認、
プロジェクト登録完了

STEP2 プロジェクト実施を通して温室効果ガスを削減（同時にモニタリングを実施）

九州電力社有林
の実施状況

2021年度にクレジットの創出に向けた各種モニタリングを実施

STEP3 モニタリング結果を報告し、クレジット認証の審査を受ける



九州電力社有林
の実施状況

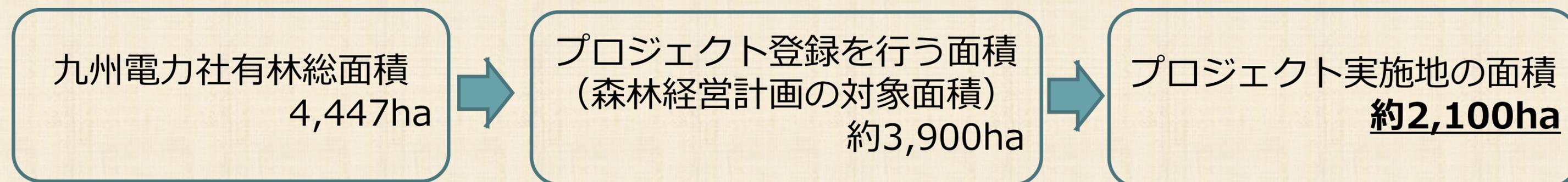
2021年度分のJ-クレジットが
2023年3月の認証委員会で承認、
10,673 t-CO₂認証済

②. 九州電力社有林 CO2吸収プロジェクト（概要）

【プロジェクト実施者】 **九州林産株式会社** （森林管理者として）

【認証対象期間】 2021年4月1日 ～ 2037年3月31日 （16年間）

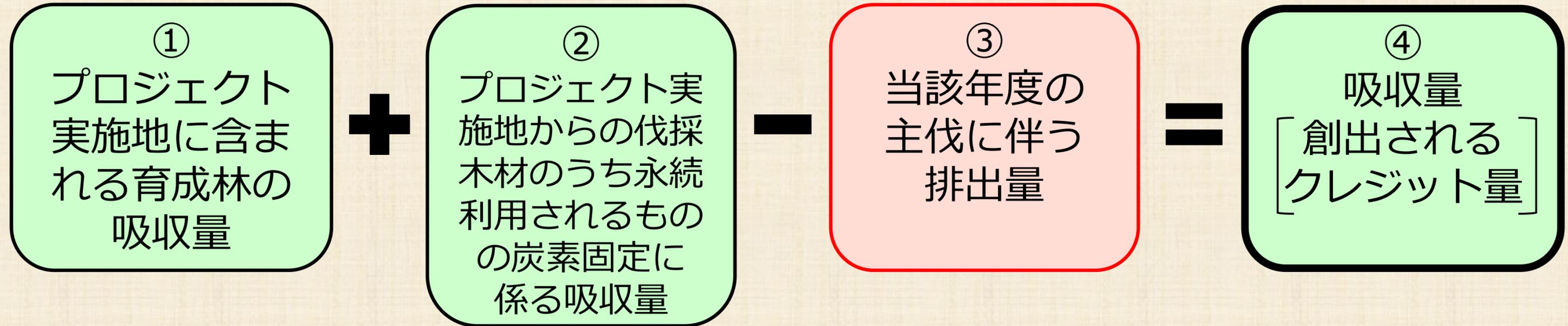
【プロジェクト実施地の面積】



【吸収見込み量】 **160,000t-CO2** （年間10,000t-CO2程度を想定）

③. 2021年度創出クレジットの内訳

【イメージ】



【創出量の内訳】

年度	① プロジェクト実施後吸収量 (t-CO2) ※育成林のみ	② 伐採木材のうち持続利用されるものの炭素固定に係る吸収量 (t-CO2)	③ プロジェクト実施後排出量 (t-CO2)	④ プロジェクト実施後吸収量 (t-CO2)
2021年度	17,046.7	374.5	6,747.3	10,673*

※小数点第一位以下切捨て

※バッファ分差引き前

④. 伐採木材の炭素固定量の算定について (1)

【算定の考え方】

森林の施業を実施したプロジェクト実施地の伐採木材（間伐材及び主伐材）を市場等へ出荷した場合は、この伐採木材が長期間（90年間）にわたって炭素を固定する量が吸収量の算定対象となる

- (1) 1年目に生産される**建築用製材**
- (2) 1年目に生産される**非建築用製材**
- (3) 1年目に生産される**建築用合板**
- (4) 1年目に生産される**非建築用合板**
- (5) 1年目に生産される原料用材及び工場残材由来の**建築用木質ボード**
- (6) 1年目に生産される原料用材及び工場残材由来の**非建築用木質ボード**
- (7) 1年目に生産される建築用製材及び建築用合板から2年目以降に毎年発生する解体材を由来とする**建築用木質ボード**
- (8) 1年目に生産される建築用製材及び建築用合板から2年目以降に毎年発生する解体材を由来とする**非建築用木質ボード**

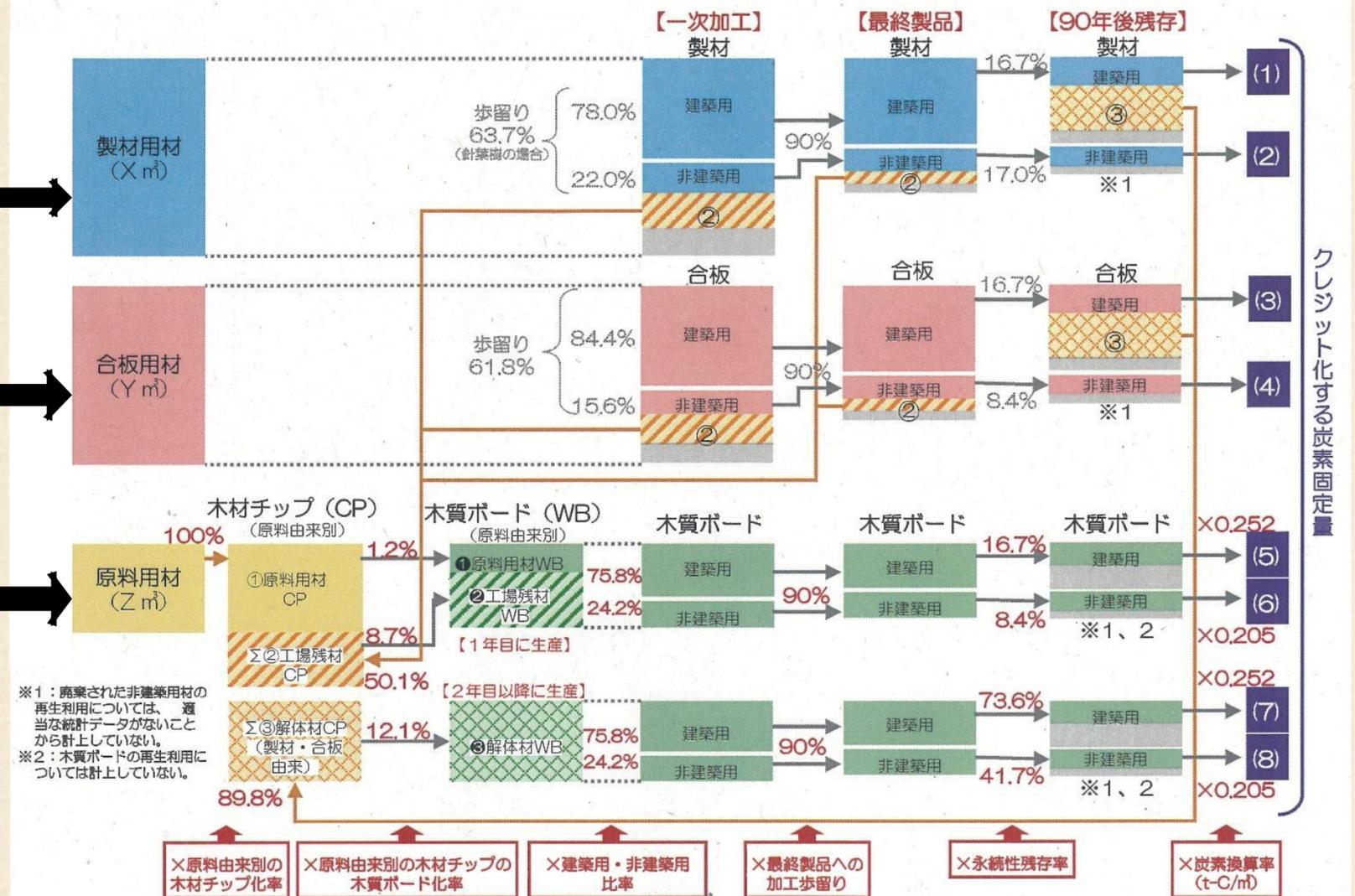
【イメージ】

プロジェクト実施地からの原木出荷量

各都道府県の用途別県産材出荷量の比率で分配

実施者自らが提出しなければならないデータはこの部分のみ

いかに効率よく原木出荷量の証左を集めるかがポイント！！



⑤. 伐採木材の炭素固定量の算定について (2)

【弊社での取り組み】

- 弊社では森林管理部門と木材販売部門が連携して、伐採から丸太出荷までを林小班ごとに一括管理 **(土場でも林小班ごとに分けて極積みするなど工夫)**
- 伐採木材の炭素固定に係る証左（施業を行った林小班ごとの丸太出荷数量）は社内で保管されているため、収集は比較的容易だった

【留意すべき点】

- ・ 複数の林小班からの丸太を、土場でまとめて一括出荷していたりする場合は、プロジェクト実施地から生産されたものかどうかの突合せが困難となる
- ・ 複数の都道府県に丸太を出荷している場合、都道府県別の自社出荷量を把握した上で各都道府県の用途別出荷量の比率を用いて計算しなければならないため、煩雑になる

【実際に取り組んでみて分かったこと】

- 主伐の実施も含めて、10,000m³近い材積量を出荷していたが、現状の計算（90年残存率）では**主伐による排出量分を補うほどのクレジットは創出されない**（排出量分の5.5%程度 P.10参照）

⑥. 今後の取り組み

2. J-クレジット創出の取り組みについて

【九州電力社有林】

- プロジェクト計画書に則り、適宜、J-クレジットの認証を実施していく
- J-クレジット創出量が増加できる取り組み（新しい制度改正など）があれば、関係者間で調整しつつ、積極的にチャレンジしていきたい
（算定対象に追加された天然生林からの創出については既に検討中）

【その他】

- 九州電力社有林でのJ-クレジット創出の取り組みで得たノウハウを用いて、九州電力グループとして、他の森林所有者・管理者さまのJ-クレジット創出を支援する「森林資源を活用したJ-クレジット創出・活用事業」を展開中
（支援実績：10者以上）

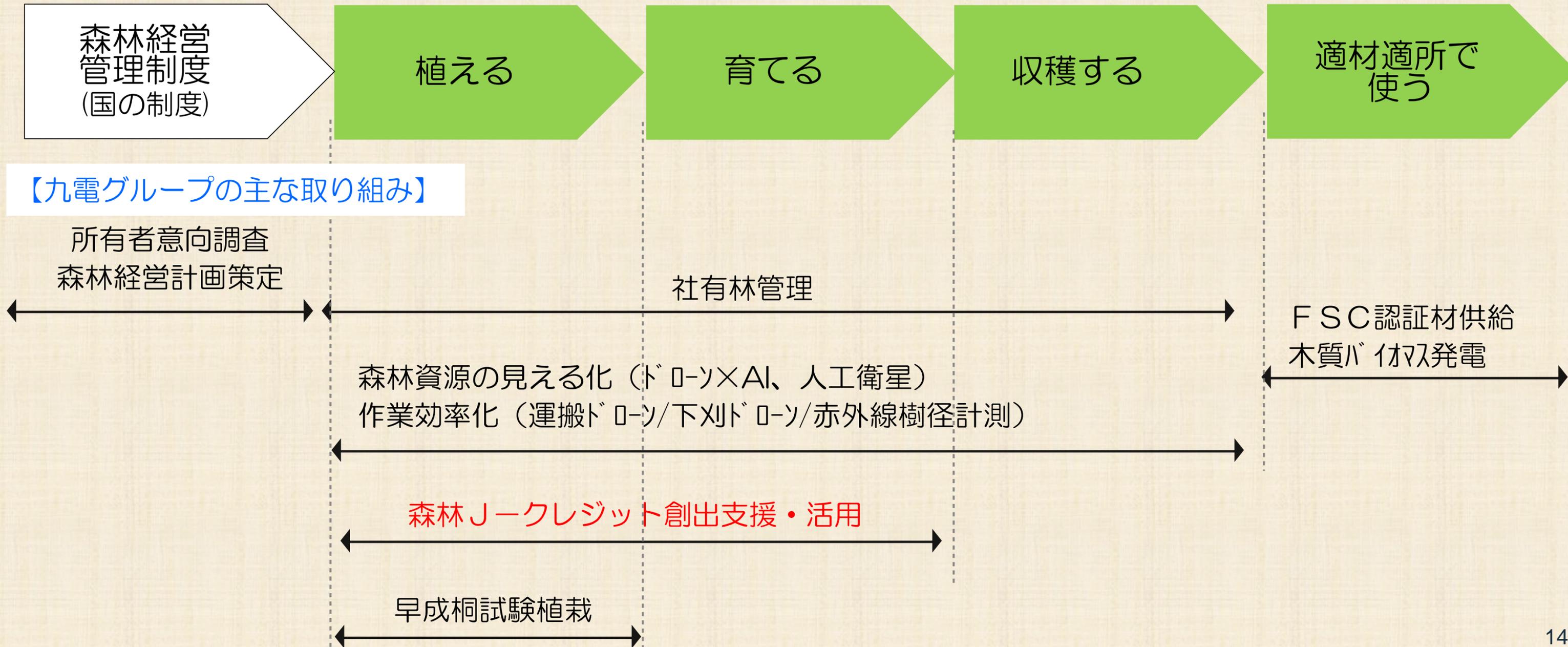
九州での森林由来J-クレジットの創出・活用を盛り上げていきたい！！

3. おわりに

①. 九電グループの森林・林業に関する取り組み

➤ 九電グループでは森林・林業に関する様々な取り組みを実施・展開中

【森林管理・林業のサイクル】



ご清聴ありがとうございました



【お問い合わせ先】

九州林産株式会社

林業部 森林経営グループ

E-mail : ringyo-bu@q-rin.co.jp

H P : <https://www.q-rin.co.jp/>